

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第8回総会議事要旨

- 1 日時：令和7年6月23日（月）13時30分～14時30分
- 2 場所：産業技術総合研究所・福島再生エネルギー研究所（FREA）本館1階共用会議室
&オンライン（Zoom）
- 3 出席者：寶*（会長）、甘利（副会長）、遠藤*（副会長）、松本*（狩矢委員代理）、秋山*、林、
真城*、小山(覚)、舟橋*（星川委員代理）、安部*、福島*、蒲生*、岡部*（山際委員代理）、
Li*、明田*、大和田、岡島
陪席者：小松原（セコム）、小山(晃)*（NTT）、市村*（東急総研）、橋本（NFLabs.）、
真城*（DRI）、上野（電中研）、横井*（産総研）、加藤（〃）、松本*（防災科研）、
田代*（〃）、干川（筑波大学）、木下（〃）、秋元（〃）、大貫（〃）、増田（〃）、
栗原（〃）、酒井（〃）、根本（〃）

（敬称略、*…オンライン出席）

4 議事

寶会長及び遠藤副会長から、議事に先立ち挨拶があった。
また、寶会長から、遠藤副会長不在時に岡島委員が副会長代理を務めることについて説明があった。

I. レジリエンス研究教育推進コンソーシアムに係る事案

【審議事項】

(1) 株式会社モリタホールディングスの入会について

岡島委員から、資料1-1～1-2に基づき説明があり、正会員として入会が承認された。
承認後、明田氏から挨拶があった。

(2) 福島国際研究教育機構（F-REI）の入会について

岡島委員から、資料2-1～2-2に基づき説明があり、正会員として入会が承認された。
承認後、大和田氏から挨拶があった。

(3) 総会・運営委員会の体制について

- 岡島委員から、資料3-1に基づき、新委員について説明があり、承認された。
- ・モリタHD：明田 京子 氏（規約第8条第4項(1)、第9条第4項(1)）
 - ・F-REI：大和田 祐二 氏（同上）
 - ・産業技術総合研究所：蒲生 昌志 氏（同上）
 - ・筑波大学：面 和成 氏（同上）
- 併せて、岡島委員から、資料3-2に基づき、幹事会の新委員についても報告があった。
- ・筑波大学：面 和成 氏（規約第10条第4項(4)：学位プログラムリーダー）
 - ・筑波大学：岡島 敬一 氏（規約第10条第4項(5)：会長の指名する者）

(4) 令和7年度年間活動計画について

岡島委員から、資料4に基づき開催計画の説明があり、承認された。

- ・2025 年 7 月 15 日（火）11:00-12:00：第 32 回幹事会 オンライン
- ・2025 年 12 月 1 日（月）13:00-17:00 頃：R2EC シンポジウム 対面（つくば）＋オンライン

(5) 「レジリエンス研究教育推進コンソーシアム活動報告 Vol. 3」刊行について

岡島委員から、資料 5 に基づき目次案の説明があり、承認された。

併せて、発行後はコンソーシアム Web サイトに掲載予定である旨の説明があった。

【報告事項】

(1) キャリアマッチングデー開催報告（R7.6.5）

岡島委員から、資料 6 に基づき、報告があった。

- ・幅広い分野から、昨年を上回る 70 名超の学生が参加
- ・次年度も継続して開催を検討したい

(2) 第 31 回幹事会開催報告（R7.4.14）

岡島委員から、資料 7 に基づき、議事の報告があった。

(3) セコム主催講演会開催報告（R7.5.20）

岡島委員から、資料 8 に基づき、報告があった。

- ・セコム社内における協働大学院の認知度を高めるため、筑波大学・セコムのコンソーシアム関係者が登壇する講演会を開催
 - ・他機関でも同様に協働大学院について再度説明する機会を設けたい
- 続いて、甘利副会長から、開催趣旨や開催後の社内の反響について補足説明があった。

(4) 防災減災連携研究ハブ（JHoP）参加機関責任者会議報告（R7.6.11）

岡島委員から、資料 9 に基づき、R2EC が参加する JHoP 参加機関責任者会議の議事について報告があった。続いて、實会長（JHoP 代表）から、活動趣旨等の補足説明があった。

(5) コンソーシアムの日本ネットワークセキュリティ協会（JNSA）入会について

岡島委員から、資料 10 に基づき、報告があった。

- ・4 月 1 日付けで特別会員として入会完了（甘利副会長の紹介）
- ・300 近くの情報セキュリティ関連企業等が加盟する業界団体

II. 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラムに係る事案

【報告事項】

(1) 社会人学生対象「教育訓練給付制度（一般教育訓練）」の認定について

岡島委員から、資料 11 に基づき、報告があった。

- ・学位プログラム博士後期課程が同制度の対象プログラムに認定（R7～3 年間、延長可）
- ・有職社会人が 10 万円の学費補助を受けられる制度

(2) 令和 6 年度修了者進路報告について

岡島委員から、資料 12 に基づき、報告があった。

- ・ 博士前期課程：9 割以上が就職、就職した学生が社会人ドクターで戻ってくるルートの開拓も課題
- ・ 博士後期課程：社会人学生が占める割合が大きく、多くが職場復帰

(3) 令和 6 年度コンソーシアム参画機関の修了者数について

岡島委員から、資料 13 に基づき、報告があった。

- ・ R6 年度の参画機関からの修了者は 1 名（防災科研職員、白田協働大学院教授指導）
- ・ R2 年度の協働大学院方式開始以降、延べ 5 名の参画機関所属者が博士号取得

(4) 令和 7 年度協働大学院教員の指導する学生数について

岡島委員から、資料 14 に基づき、今年度も多くの協働大学院教員が主指導・副指導を行っている旨の報告があった。

(5) F-REI 山崎理事長講演会（第 235 回 RERM）の開催について

岡島委員から、資料 15 に基づき、7 月 14 日（月）に開催する講演会の告知があった。

(6) 社会人向け学位プログラムリーフレット（令和 7 年度版）の発行について

岡島委員から、資料 16 に基づき、リーフレットを更新した旨の報告があった。（コンソーシアム Web サイトに掲載済み）

以上